

## 2018年 ピースボート地球大学 特別プログラム 「ともに築くアジアの平和」

2018年8月31日（金）～9月18日（火） [19日間]  
広島～厦門（中国）～シンガポール～シェムリアップ・プノンペン（カンボジア）

# PEACE BOAT

### ピースボート地球大学とは

ピースボート地球大学は「地球一周の船旅」を活用した短期集中型の英語でのグローバル人材育成プログラムです。訪れる各地域での現場体験と洋上ゼミを組み合わせ、地球規模の問題を自分の問題として考える視点を養い、理解を深めていきます。専門知識を武器に、現場の声を確実に拾いながら、思いやり（empathy）と情熱（passion）をもって地球規模の課題を解決に導ける人材、先の見えない社会を牽引していく未来のリーダーのためのプログラムです。

※「ピースボート地球大学」は、NGO ピースボートがコーディネートする教育プログラムです。学校教育法上で定められた正規の大学ではありません。



### プログラム行程

参加者は8月31日（金）に広島にて集合、現地でのエクスポージャーの後に神戸港からピースボート第99回地球一周の船旅を実施中のオーシャンドリーム号に乗船しました。途中厦門に寄港しシンガポールにて下船。シンガポールとカンボジアでエクスポージャーを行い9月18日（火）にプログラムを終え、解散しました。

### 参加者

6ヶ国・地域 17名

日本 7名 台湾 5名 マレーシア 1名  
インド 1 東ティモール 1名  
ブルネイ・ダルサラーム 2名

ピースボートがアジアにもつ提携大学・および NGO ネットワーク（下記参照）から集まりました。

- 東京外国語大学（日本） 「『コンフリクト耐性』を育てる地域研究教育システムの開発と国際職業人教育機能の高度化」プロジェクトとして6名参加（学内選抜有2単位）。
- Lung Yingtai Cultural Foundation（台湾） 財団の奨学金事業として5名参加（選抜有）。
- Brunei Project（ブルネイ・ダルサラーム） 財団の奨学金事業として2名参加（選抜有）。



### ナビゲーター

#### • ジョン・ジー [フリーランスライター]

1999年にイギリスよりシンガポールに移住。シンガポールで移住労働者を支援するTransient Workers Count Too (TWC2)を創設し、労働者の人権保護の活動に関わる。

#### • ファウジア・ハサン [医師・人道活動家]

産婦人科医。コソボ、アフガニスタン、ガザ、バングラデシュなどでの人道支援活動・医療活動に携わる。MyCARE という NPO の顧問も務める。

#### • 伊勢崎賢治 [東京外国語大学教授]

2001年より国連シエラレオネ派遺団の武装解除部長を務める。2003年からは、日本政府特別顧問としてアフガニスタンでの武装解除を担当。現在、東京外国語大学教授。

### ゲスト講師

深津高子（国際モンテッソーリ協会公認教師）

### コーディネーター（ピースボート）

川崎哲、畠山澄子

## 「地球大学特別プログラム」の特徴 ～ アジアから世界を変える

### 多様性を知る

地球大学にはアジア太平洋各国から参加者が集まります。バックグラウンドや専門の違う参加者と経験や意見を交わすことで、物事にはいくつもの見方があることを知り、様々な視点を比較・統合していく力を養います。

### 英語を使う

言語は学びのツールです。英語「を」学ぶのではなく英語「で」学ぶのが地球大学。ディスカッションやプレゼンテーションも行います。各地のアクセントに触れながら、グローバルコミュニケーションの力を鍛えます。

### 現地に学ぶ（エクスポージャー）

エクスポージャー（現地実習）を通して平和や人権、環境問題を検証し、現地に暮らす人々とともに解決策を考えます。「かわいそう…」から「私が変わる！」に変わる。他人事から自分事へ。それが平和な社会を築く当事者への第一歩です。

## プログラム内容

### 平和 § ネバーアゲイン：未来の世代のために立ち上がる [広島エクスポージャー（1.5日間）+洋上ゼミ5コマ]



広島では、平和公園のウォーキングツアー、広島平和記念資料館、そして被爆者の方との対話を通して原爆の被害の実相について学びました。核廃絶のために活動している様々な人たちにも話を聞くことで、軍縮や平和の問題について具体的な行動を起こすことについても考えました。洋上では、ピースボートの川崎が核軍縮をめぐる国際情勢についてレクチャーした上で、原爆ドームの保存に関する議論をロールプレイすることで記憶の継承について考えを深めたほか、平和と紛争について小学生に教えるための教材づくりにも取り組みました。

### 持続可能性 § 持続可能な開発へと舵をきる [廈門エクスポージャー（1日）+洋上ゼミ3コマ]



廈門では、廈門大学の協力を得てアワビの養殖場と海洋研究所を訪れ、「持続可能性」をキーワードに乱獲や食糧自給の問題、海洋汚染の問題を考えました。NGOや国際機関だけでなく、研究機関も持続可能な開発目標を実現していくにあたって大きな役割を果たせることを知りました。洋上では、乱獲を規制するためには何ができるかをロールプレイ方式で話し合った他、世界各地の紛争が環境に与えてきた影響についても取り上げました。さらに、発展途上国で起こる貧困と環境破壊と紛争の連鎖については伊勢崎氏のレクチャーをもとに活発な議論を行いました。

### 包摂性 § 誰一人取り残さない社会を築く [シンガポールエクスポージャー（1日）+洋上ゼミ3コマ]



シンガポールではふたつの現地の団体を訪れ社会の多様性について学びました。障がい者を対象に職業訓練と就労支援を行う団体では、食堂で働く障がい者にお菓子づくりを教してもらいながら、誰しものが自立して生活できるということの意味を考えました。洋上でジー氏にも話を聞いていた移住労働者については、実際に移住労働者としてシンガポールで働く人たちに直接話を聞くことができました。このほか洋上ではハサン氏が多民族・多宗教共生についてマレーシアを事例にゼミを行い、また、学生は船内の他の若者と共に異文化交流ワークショップにも取り組みました。

### 公正 § 信頼を取り戻す [洋上ゼミ3コマ+シムリアップ・プノンペンエクスポージャー（6日間）]



洋上ゼミでロヒンギャやイスラエル・パレスチナ、東ティモールをケースに公正や和解について取り上げたのち、学生はカンボジアを訪れ様々な視点から内戦の爪痕と復興のプロセスについて学びました。ポルポト政権下で行われた大量虐殺についてはキリングフィールドとトゥール・スレンを訪れたほか、トゥール・スレンの生存者の証言を聞きました。また地雷の被害者に出会い、今も続く地雷撤去作業の現場を目の当たりにし、紛争がもたらす長期的な影響についても知りました。これらを通して国際社会の途上国への支援のあり方についても議論を深めていきました。

### ONBOARD CHALLENGE 船内チャレンジ [洋上ゼミ12コマ]



学んで実践して、実践して学ぶ。実践と学びを両輪とするのが地球大学です。そのために多国籍の約1000名がともに旅をする船という場を活かします。プログラム期間中、学生は4つのグループに分かれて「包摂性」と「持続可能性」についてのアクションを考えるという課題に取り組みました。ナビゲーターに助言をもらいながらグループごとにビジョンを考え、目標を設定し、アクションを企画・立案・実践しました。異なる意見をまとめるために試行錯誤しながら、最終的にはアンケート調査やワークショップ、ポスター展示など、様々な取り組みを実現させました。

## 2019年度の開催予定

ピースボートでは2019年8月に3週間程度の地球大学特別プログラムの実施を予定しています。大学提携などに関するご相談やお問い合わせは右記連絡先までお寄せください。

## 問い合わせ先

ピースボート事務局  
Tel: 03-3363-7561 Fax: 03-3363-7562  
[univ@peaceboat.gr.jp](mailto:univ@peaceboat.gr.jp)  
<http://peaceboat.org/projects/univ>